

令和 7 年度 認証評価

有明教育芸術短期大学 自己点検・評価報告書

令和 7 年 6 月

目次

1. 自己点検・評価の基礎資料	3
2. 自己点検・評価の組織と活動	9
【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】	11
〔テーマ 基準Ⅰ-C 社会貢献〕	11
【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】	12
〔テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程〕	12
〔テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果〕	15
〔テーマ 基準Ⅱ-C 入学者選抜〕	15
〔テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援〕	16
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	19
〔テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源〕	19

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

有明教育芸術短期大学（以下、本学）の設置者である学校法人三浦学園は、明治36年にわが国初の私立音楽学校として創立された「音楽遊戯協会」を原点とし、20世紀初頭から今世紀にまたがる長い歴史と伝統を誇っている。その後は「女子音楽学校」、「日本音楽協会（男子）」、「日本音楽学校」と名称を変更し、これまでに数多くの音楽家、音楽教育者、幼児教育者、保育者を輩出してきた。

本学は、「日本音楽学校」の伝統と明治以来の日本最古の音楽教育の伝統を基盤とし、三浦学園が掲げる建学の理念である「愛と和と誠実」を引き継ぎ、平成21年4月に「子ども教育学科」と「芸術教養学科」の2つの学科で構成される短期大学として、東京都江東区の地に開学した。平成28年4月からは「子ども教育学科」のみの単学科となったが、学園の建学の理念を踏まえ、学則第1条には本学の目的及び使命が次のとおり明記されている。

（目的及び使命）

第1条 本学は、豊かな人間性と国際社会に即応できる独創性を備え、すぐれた教育能力や芸術教養を身につけた人材を育成し、人々の生活の充実と教育や芸術の発展に寄与することを目的とする。

また本学は、人類の教育と芸術という二つの遺産を尊重し、わが国や外国の教育や芸術を育んだ知と技の伝統に学び、教育や芸術が人間の生活に係わる実際とその理念を探求することを使命とする。

上記目的及び使命に基づき、本学では、人々の生活の質の向上を支援する人材の育成を目指している。全国でも数少ない3年制の保育者・教育者養成課程であり、子どもたちの考え方や感情を受け止め、それを踏まえて子どもたちに働きかける能力や表現コミュニケーション能力を身につけさせることを目指している。

<学校法人の沿革>

明治36 (1903)	我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として東京・神田に創立
明治39 (1906)	「女子音楽学校」「日本音楽協会（男子）」に名称変更
昭和2 (1927)	「日本音楽学校」に名称変更
昭和24 (1949)	「日本音楽学校附属幼稚園」創立
昭和25 (1950)	財団法人日本音楽学校認可 「日本音楽高等学校」創立
昭和26 (1951)	学校法人三浦学園認可
昭和28 (1953)	我が国初の「教員養成機関（中学校音楽教諭養成科）」を設置
昭和29 (1954)	文部大臣指定「幼稚園教諭養成科」を設置
昭和47 (1972)	厚生大臣指定「保育養成科」を設置
昭和53 (1978)	専修学校として認可

昭和63 (1988)	日本音楽高等学校音楽科に「バレエコース」設置
平成4 (1992)	創立90周年事業の一環として三浦記念館（大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室）竣工
平成11 (1999)	日本音楽学校「幼稚園教員科」・「幼児教育科」を「幼児教育科」に改組 厚生大臣指定「東京聖星社会福祉専門学校」創立（～平成22年閉校）
平成13 (2001)	「日本音楽学校保育園」創立
平成14 (2002)	日本音楽高等学校普通科に「幼児教育コース」設置
平成15 (2003)	日本音楽学校創立100周年を迎える
平成21 (2009)	東京・江東区有明に「有明教育芸術短期大学（子ども教育学科・芸術教養学科）」開学
平成22 (2010)	上記開設に伴い、日本音楽学校閉校
平成23 (2011)	日本音楽高等学校音楽科に「舞台芸術コース」設置
令和5 (2023)	学園創立120周年 日本音楽高等学校を『品川学藝高等学校』に改称し男女共学化 日本音楽学校幼稚園を『品川学藝幼稚園』に改称 日本音楽学校保育園を『品川学藝保育園』に改称

< 短期大学の沿革 >

平成 21 (2009)	東京・江東区有明に「有明教育芸術短期大学（子ども教育学科・芸術教養学科）」開学
平成 27 (2015)	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 募集停止
平成 28 (2016)	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 廃止

(2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置する全ての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 令和 7 (2025) 年 5 月 1 日現在

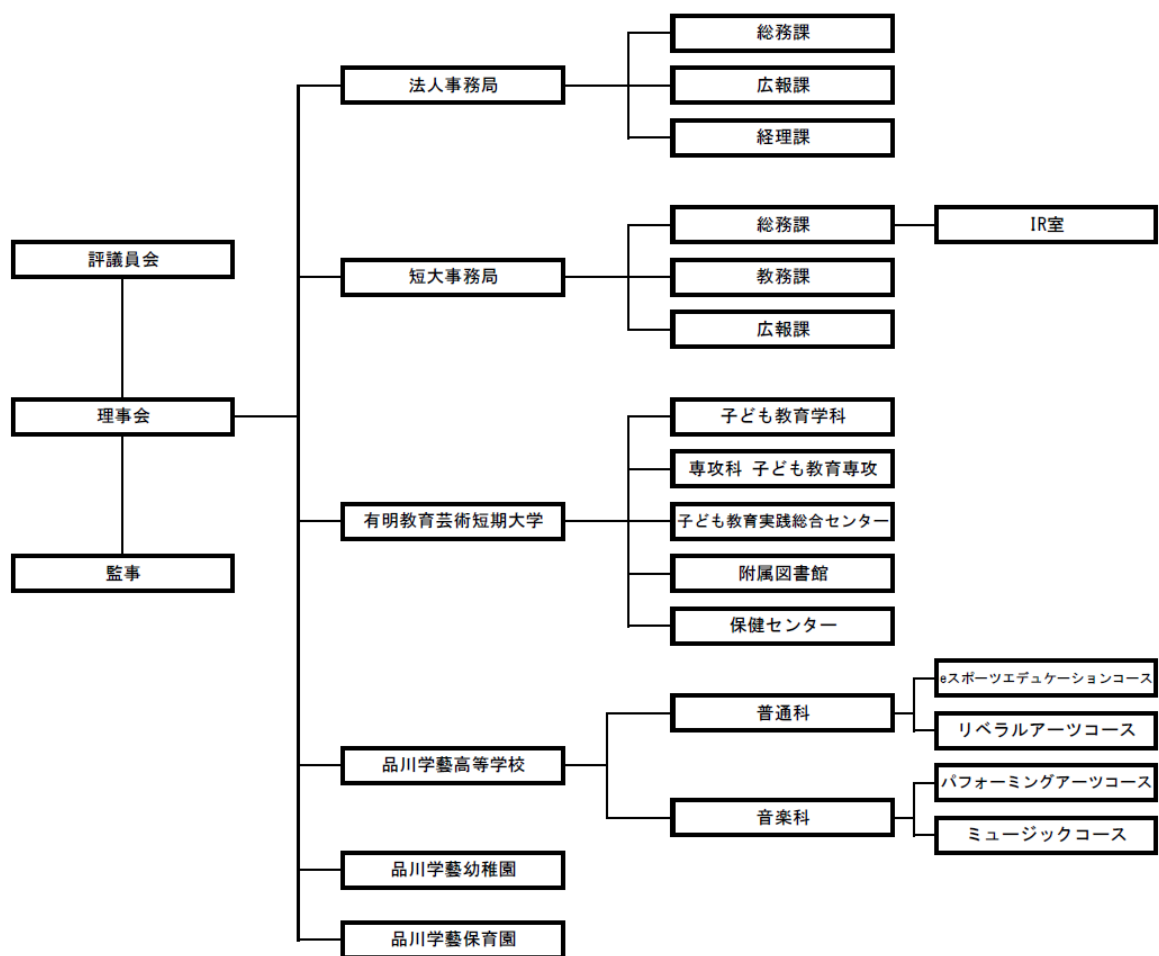
教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
有明教育芸術短期大学 [子ども教育学科]	東京都江東区有明 2-9-2	100	300	203
有明教育芸術短期大学 [専攻科子ども教育専攻]		20	20	5
品川学藝高等学校 [e スポーツエデュケーションコース] [リベラルアーツコース] [パフォーミングアーツコース] [ミュージックコース]	東京都品川区豊町 2-16-12	100	300	471

品川学藝幼稚園	東京都品川区豊町 2-16-12	35	105	49
品川学藝保育園	東京都品川区豊町 2-16-12	26		19

(3) 学校法人・短期大学の組織図

- 組織図
- 令和 7（2025）年 5 月 1 日現在

令和7年度学校法人三浦学園組織図



(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

- 立地地域の人口動態（短期大学の立地する周辺地域の趨勢）

本学が立地している江東区は都内 23 区東部に位置している。令和 7 年度（令和 7 年 6 月 1 日）現在、人口総数は 543,854 人、世帯数は 297,443 世帯で、前年同時期と比較すると人口は 3,289 人、世帯数は 4,472 世帯増加している。

江東区は江戸の歴史や文化によって形成された下町の風情が残存している地域と、交通・居住・商業機能の整備や強化が活発な湾岸エリア地域に分かれており、地域開発に伴い人口の増加と併せて教育施設が多く集まる文教地区にもなっていることから、本学では多面的な性格を持つ地域へと変貌を遂げている江東区のニーズに合わせて地

域貢献することが教育・研究に並ぶ大きな使命であると捉えており、本学の立地条件としても適している。

■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

地域	令和 2 (2020) 年度		令和 3 (2021) 年度		令和 4 (2022) 年度		令和 5 (2023) 年度		令和 6 (2024) 年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
茨城県	2	2.6	0	0	0	0	4	4.8	0	0
栃木県	0	0	3	3.6	1	1.2	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	1	1.2	0	0
埼玉県	5	6.7	6	7.1	6	7.1	5	6.0	7	13.5
千葉県	14	18.7	9	10.7	16	18.8	14	16.6	8	15.4
東京都	31	41.2	46	54.8	47	55.3	36	42.9	29	55.8
神奈川県	8	10.7	11	13.1	8	9.4	6	7.1	3	5.8
その他 都道府県	15	20.0	9	10.7	7	8.2	18	21.4	5	9.6
合計	75	100.0	84	100.0	85	100.0	84	100.0	52	100.0

[注]

- 短期大学の実態に即して地域を区分してください。
- この事項においては通信による教育を行う学科の学生を除いてください。
- 認証評価を受ける前年度の令和 6（2024）年度を起点に過去 5 年間について記載してください。

■ 地域社会のニーズ

江東区の「子育て支援に関わる意見・要望調査」（令和元年 12 月 1 日～令和元年 12 月 21 日実施）では、マンション増設に伴う急激な子育て世代の人口増加により、特に教育施設や保育所などを中心に公共施設の早急な整備や保育士人材の確保を求める意見が多く寄せられている。東京都の統計においても江東区は平成 17 年以降に年少人口構成比が増加に転じてから、都全体の中でも人口の増加が顕著な地域となっていることが示されており、本学が開学した平成 21 年には 10.0%以上増加するなど、転入者数が転出者を上回る状態が続いている。こうしたことから、江東区では区民ニーズに対応するため、令和 2 年 3 月に「江東区こども・子育て支援事業計画（令和 2 年度～令和 6 年度）」を策定し、保育所待機児童数の減少や子育てひろば利用者数の増加などを掲げ、子育て支援サービスの充実や就学前教育・保育事業などを推進している。

本学ではこうした地域社会のニーズに応えるため、キャンパスを構える江東区有

明地区に還元し地域貢献することを目的に、公開講座・公演の実施、子育て支援、生涯学習などを行っている。

■ 地域社会の産業の状況

江東区の木材及びその関連産業は、昭和 40 年ごろから都市型産業へと急速に発展し、今日では“住”と“工”という二つの要素が混在した新たな局面を迎えている。「木場」は江戸時代から木材の集積地として発展した後、現在の「新木場」に移転した。平成 11 年に臨港地区の変更や用途地域の見直しなどによって、新木場地区は木材関連をはじめとした生産・流通機能のほかに商業・業務機能が共存できるようになった。

大正 12 年以降は、早くから運河が開けており水運の便を利用して石炭や原材料を運搬するのに便利であったことから、ガラス工場が多くみられるようになった。食器や理化学硝子、自動車部品などの工業用硝子等の製造事業所も多くあったが、都市化に伴い工場が移転したことなどにより、現在は加工業が中心となっている。伝統産業の江戸切子（カットグラス）は、現在も数多くの職人たちによって生み出されている。その他、東京の繊維産業の中心地となっており都の中心機能を維持するための情報発信基地として印刷・製本でも重要な役割を担うなど従来の産業を中心としながら情報関連業の集積も目立っている。

また、江東区は東京都が策定した臨海副都心地区となっており、伝統産業だけでなく近年では隅田川・荒川・東京湾に面し水と緑に囲まれた「水彩都市」として地理的条件を活かした観光業にも力を入れている。アジア、世界に向け、経済、文化、科学技術など様々な情報の発信・交流の拠点として国際展示場（東京ビッグサイト）をはじめとした施設が次々と建設され開発が進んでいる。羽田空港に近く、成田空港へも高速道路で結ばれており国際・広域交通の結節点にもなっているほか、ゆりかもめ・りんかい線の 2 本の鉄道と幹線道路が拡充されるなど都心からのアクセスが充実している。最先端のインフラを備え、災害に強い臨海副都心として、ウォーターフロントの魅力を最大限に活かした水辺や緑の空間、うるおいとやすらぎのある都市景観を創造し、職・住・学・遊の機能が複合したアメニティの高いまちづくりが進められ、人・モノ・情報の広域的交流を支える質の高いビジネス都市を目指し、21 世紀の首都東京の一役を担うとされている。

このように、江東区では伝統的な産業を継承した新しい文化・産業との融合を図っている。東京都現代美術館（MOT）では現代芸術の普及活動を、東京国際交流館プラザでは留学生の受入れや国際交流を行っており、有明コロシアムや東京辰巳国際水泳場ではスポーツの推進を積極的に行っている。令和 3 年には東京オリンピックが開催され、江東区を中心として会場が設営されるなど、国際的な重要性はさらに高まっている。

■ 短期大学所在の市区町村の全体図



(5) 公的資金の適正管理の状況（令和 6（2024）年度）

- 公的資金の適正管理の方針及び実施状況を記述してください（公的研究費補助金取扱いに関する規程、不正防止などの管理体制など）。

本学では、科学研究費助成事業による学術研究助成基金助成金・科学研究費補助金取扱いについて文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（令和 3 年 2 月 1 日改正）に基づき、「有明教育芸術短期大学 公的研究費の運営・管理に関する規程」を定め、公的研究費の公正かつ適正な管理体制をとっている。

事務局職員は日本学術振興会の開催する説明会に参加し、最新情報を教員に説明し、適切な処理ができるようにしている。新規採択教員には学内で作成した「公的研究費事務処理マニュアル」を配付し、不正使用の防止に努めている。

また、執行状況を最高管理責任者である学長へ報告するなど、公的研究費における不正防止を徹底する取り組みを行っている。

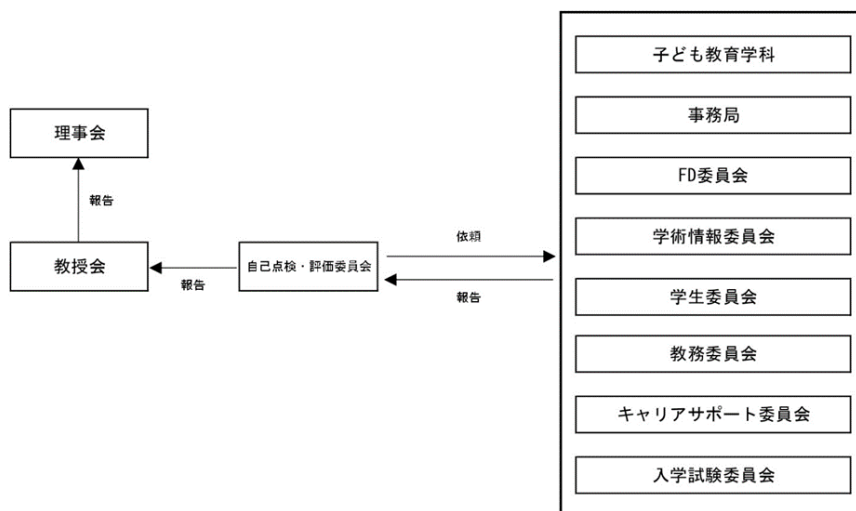
2. 自己点検・評価の組織と活動

- 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

本学の自己点検・評価委員会は、学則第4条及び第18条、ならびに「自己点検・評価等の実施規則」に基づき組織され、以下の構成員で構成され、自己点検・評価委員会と各学科、各種委員会、各部署との連絡調整など運営をスムーズに行っている。

委員構成	氏 名	役職・所属
委員長	若林 彰	学長
委員	長田 信彦	ALO
委員	深澤 瑞穂	子ども教育学科長
委員	有福 一昭	附属図書館長
委員	山田 麻美子	子ども教育実践総合センター長
委員	中西 菊乃	事務局長
委員	寺内 義人	ALO補佐・事務局総務課長
委員	高野 有平	事務局総務課

- 自己点検・評価の組織図（規程は提出資料）



■ 組織が機能していることの記述（根拠を基に）

本学では学則第4条において、教育研究水準の向上を図り、学則第1条に掲げる本学の目的を達成するため、教育研究、組織運営及び施設・設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとしている。学則第18条では、自己点検・評価のための組織体制として、学内に自己点検・評価委員会を設置することを定め、同委員会が本学の自己点検・評価の主導的な役割を担っている。学長が委員長及び議長を務め、その他の委員は、図書館長・学科長・事務局長・及び学長が必要と認める者から構成されており、随時開催して方針を決定する。

自己点検・評価報告書の作成について各委員会（子ども教育学科、事務局、FD委員会、学術情報委員会、学生委員会、教務委員会、キャリアサポート委員会、入学試験委員会）は「自己点検・評価報告書作成マニュアル」に基づき報告書を作成し、自己点検・評価委員会に提出する。自己点検・評価委員会で承認された報告書（案）は教授会に提出し、承認が得られた後に理事会で報告を行う組織体制となっている。

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準Ⅰ-C 社会貢献]

令和6年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

学校法人三浦学園の併設校である、品川学藝高等学校との高大連携を展開した。

(イ) 生徒連携について

① 前期 火曜日 5限

- ・保育教材研究「歌と手遊び」(単位認定)

3年幼児教育コース対象 | 3年生2名参加

② 後期 火曜日 5限

- ・子ども教育特別講座3「遊ぶ・解放・自己表現」(単位認定)

2年生8名参加

- ・英語とコミュニケーション(単位認定)

2年生3名参加

③ 有明教育芸術短期大学 1日体験学習

参加者：2年生 普通科全員、音楽科希望者 計87名参加

内容：有明教育芸術短期大学にて、火曜日に開講されている授業12科目のうち、2科目を生徒がそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

(ロ) 高大連携オープンキャンパスの実施について

品川学藝高等学校の生徒を対象としたオープンキャンパスを実施した。

実施日：令和6年(2024年)3月11日(火)

対象：2年生普通科全員、音楽家希望者

(ハ) 品川学藝高等学校への出張講義について

有明教育芸術短期大学の専任教員による、品川学藝高等学校への出張講義を実施した。

開講科目：リベラルアーツコース「チャイルドフット」全14回(90分×7回)×2期

(ニ) 教員間の連携について

品川学藝高等学校との、高大連携会議を開催した。(7月、3月)

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

令和6年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

専任教員14名（教授9名、准教授4名、助教1名）、非常勤教員29名で、教育課程の編成・実施にあたった。

（イ）役職

学長	若林 彰（二期2年目）
副学長	長田 信彦（再任）
学科長	深澤 瑞穂（再任）
附属図書館長	有福 一昭（再任）
子ども教育実践総合センター長	山田 麻美子（再任）
学科長補佐	新庄 恵子（新任）

（ロ）教育課程の編成について

① 2学期に亘り、4ターム制を導入・実施した。

前期を1ターム・2ターム、後期を3ターム・4タームとして指導を可能とした。

第1学期						第2学期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1ターム		第2ターム		夏休み		第3ターム		第4ターム		春休み	

令和6年度において、週2コマ×8週（2コマ連続開講）で実施した授業科目は、以下のとおりである。

○前期

事前事後の指導（小学校）
事前事後の指導Ⅱ（保育所）
事前事後の指導Ⅲ（施設）
体育科指導法
特別活動と総合的な学習の時間

○後期

事前事後の指導Ⅰ（保育所・施設）
子どもの健康と安全
子ども教育特別講座4 micro:bitで遊ぼう AI入門

② 以下のデジタルコンテンツ系の科目を新設した。

科目名	授業内容 / 備考
データサイエンス	地域保育園とのデータ連携
プログラミング基礎	プログラミング初級
動画クリエイター入門	作成から投稿までの基礎
教育と ICT 活用	教科学習における ICT 活用
情報リテラシー 上級	情報教育上級
情報リテラシー	既存のデジタルコンテンツ系の科目
デジタルアニメーション	
micro:bit で遊ぼう AI 入門	

③ 『ライフキャリア演習』について

『ライフキャリア演習Ⅰ～Ⅳ』を『未来デザインⅠ～Ⅳ』へと改名し、学年別の編成として以下の通り実施した。

1 年次	大学への適応指導、履修指導
2 年次	実習指導
3 年次	キャリア指導（就職支援）

④ 教授法の充実について

- ・アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を取り入れた指導の充実
- ・ICT を活用した指導の充実

オンライン授業の実践	Google Classroom の活用
オンデマンド授業	YouTube の配信
双方向型授業の展開	Zoom を活用した授業

⑤ オンライン授業週間の設置

全ての授業において、前期 2 回、後期 2 回のオンライン授業を実施した。
形態は同時双方向型ハイフレックス形式（教室での授業を配信）の授業とした。
学生は、登校型、非登校型を任意で選択した。

<前期>

1 年生、3 年生	6 月 4 日（火）～6 月 17 日（月）
2 年生	6 月 18 日（火）～7 月 1 日（月） {教育実習の為}

<後期>

1 年生、3 年生	11 月 18 日（月）～11 月 29 日（金）
2 年生	11 月 25 日（月）～11 月 29 日（金） 12 月 24 日（火）～12 月 27 日（金） {教育実習の為}

(ハ) 教育課程の点検について

- ・令和6年度及び令和7年度の教育課程の点検を実施した。
入学生のニーズや単位数の負担を考慮し、科目の統廃合、必修・選択科目の見直しを実施した。
- ・教育課程の改訂に伴い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングの改訂を実施した。
- ・教育課程の改訂及び、令和6年度から導入したターム制を反映させ、履修規則・履修規則別表の改訂を実施した。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果]

令和6年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

(イ) 学習成果の把握・評価・公表について

- ・前期及び後期の GPA 分布状況にて、学習成果の把握と評価を実施すると共に、本学 WEB『情報公開』ページにて公表を実施した。
 - ・前期に『基礎学力テスト(外部テスト)』を実施し、学生の基礎学力の把握を行った。評価結果を踏まえて、担任からのフィードバックを実施した。
- また、『ライフキャリア演習』『未来デザイン』の授業内で『基礎学力テスト(外部テスト)』の振り返りシートを学生に記述させることで、学生自身が自らの課題を見つけ、その改善に向かって行動できるような指導を実施した。

[テーマ 基準Ⅱ-C 入学者選抜]

令和6年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

(イ) 募集対策について

令和7年度入学者選抜の募集実績は、出願者56名となった。

総合型選抜はエントリーが38名、出願に至った生徒は31名であった。特に前半6月～9月のエントリーは33名と、非常に好調であった。

しかし、学校推薦型選抜のエントリーは24名に留まった。他大学の総合型と、公募制、推薦で不合格になった生徒や年明けの進路変更希望の生徒からの出願が、ほぼ見込めなくなってきていると分析している。

今後、この傾向は大きく変わらないことが予想されるため、高大連携校(5校1社)との連携強化や、品川学藝高等学校の内部進学入学者の強化を図っていく。

	子ども教育学科希望 受験対象者実数	参加者総数(延べ数) 注：高1・2と友人含む、保護者は除く			
		高3以上	高2	高1	計
R6年度	113名	148名	63名	29名	243名(不明2名)
R5年度	118名	143名	67名	21名	232名(中学1名)
R4年度	182名	227名	68名	22名	321名(不明4名)
R3年度	176名	212名	71名	26名	309名
R2年度	149名	179名	38名	7名	225名(その他1名)

[テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援]

令和6年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

(イ) 初年次研修 1年生全員合宿の実施について

① 合宿の目的

新入生の大学生活スタートを支援し、3年間の学びをサポートする第一歩として、ガイダンス・オリエンテーション、親睦の機能をもたせた1年生全員合宿を実施した。目的、狙いは以下の通りである。

- ・各種申請書類提出、授業履修、学修、子ども教育学科の概要等、大学生活に必要な情報を与える。
- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等に向けた3年間の学修の流れについて、ガイダンスを行ない、1年生が大学生活に見通しを持てるようにする。
- ・学生相互、上級生、教員との親睦を図り、学生の人間関係形成を図る。
- ・新2年生有志のメンターは企画担当として、活動の場を設定することにより、人間関係形成能力とリーダーシップ等を醸成する、実践的な学びの場とする。

② 実施の概要

- ・実施日時：2024年5月18日（土）、5月19日（日）
- ・実施場所：一般財団法人 人材開発センター 富士研修所
- ・参加者：1年生54名、2年生・3年生から成るメンター10名
教員12名、事務局職員1名、常務理事

(ロ) 有明祭について

- ・開催日時：2024年10月26日（土）、10月27日（日）

学友会を中心に企画を行ない、一般公開という形で実施した。

サークル、有志の学生団体によるパフォーマンスを、大ホール及びドラマ演習室で行なった。飲食、展示、イベント等については、各教室、グラウンド、中庭円形ステージにて実施した。

例年、株式会社サンリオからキャラクターを招待してイベントを実施していたが、予算縮小の為、本学非常勤教員の大島先生による「やっしーと遊ぼう」を実施した。

(ハ) サークル活動について

令和6年度は、9団体のサークルが活動した。

昨年度はコロナ禍から明けて、サークルの実施可能を本格的に認めたことから12団体のサークルが活発に活動していたが、令和6年度については団体数が絞られたようである。

(ニ) 学生に対する教務的な指導について

4月には、新入生及び在校生に対して、履修に関するオリエンテーションを行なった。

前期及び後期開始時には、個別での履修指導が必要と判断した学生に対して、教務的な指導を行なった。

授業への出席率が低いと判断された学生に対しては、全 5 回に及ぶ呼び出し指導を実施したが、指導に応じない学生に対しては、保証人宛てに通知措置を行なった。

(ホ) キャリア形成・就職支援について

令和 6 年度も引き続き、キャリア形成・就職支援の充実を図った。

令和 6 年度の実績として、公立小学校に 15 名、公立保育園に 1 名が合格した。

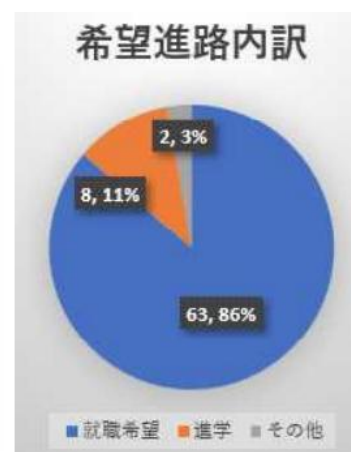
① 公立小・幼試験対策プログラム『夢 Realize(ユメリア)』の実施

『夢 Realize (通称：ユメリア)』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向け、自主的かつ協働的な学びを深めるための支援プログラムである。

ねらい	1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。
受講対象者	公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生
実施内容	同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。 採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。 それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。
指導員	・学科教員・キャリアサポートセンター職員

② 就職状況について

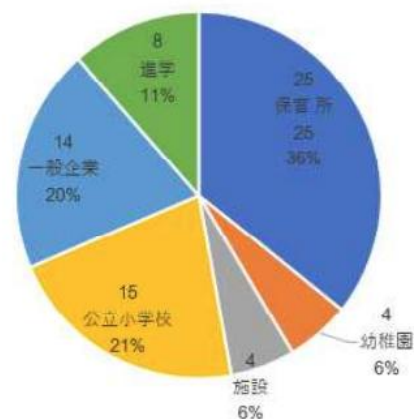
令和 5 年度卒業生		計	男	女
卒業生数		73	16	57
希望進路	就職	63	14	49
	進学	8	2	6
	その他	2	0	2
決定進路	就職	63	14	49
	進学	8	2	6
	その他	0	0	0



進路内訳

<進路内訳>

保 育 所	・ ・	41.3% (26名)
幼 稚 園	・ ・	6.3% (4名)
施 設	・ ・	6.3% (4名)
公立小学校	・ ・ ・	23.8% (15名)
一般企業	・ ・ ・ ・	23.8% (14名)
進学	・ ・ ・ ・ ・	10.9% (8名)



（へ）退学者について

令和 6 年度の退学者は 3 名（前年比 -0 名）であった。3 名とも進路変更が理由である。除籍は 1 名（前年比 +1 名）に留まった。教員及び教務課職員によるきめ細やかな個別対応の成果が実を結んだと考えられる。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

令和 6 年度中は、本項目に準ずる内容として、下記の取り組みを実施した。

(イ) 教員評価の実施について

令和元年 9 月に策定した「有明教育芸術短期大学 教員活動評価実施規定」を基に、教員評価活動を令和 6 年度においても実施した。

本学教員が、自己の活動を点検し、評価することを通じて、本学の教育研究活動の活性化を促進する。教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資することを目的とする。

対象者は、前年度 1 年間、本学の専任教授、准教授、講師、助教であった者とした。

評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の 4 領域として、A～D の評点に基づいて自己点検評価を行なっている。

< 評価内容 >

(1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD 活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

(2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績
④外部研究費の導入実績

(3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

(4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

(5) 反省、省察

令和 6 年 12 月には、教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和 6 年度における教員活動評価を実施した。評価提出者は、対象者 13 名中 12 名であった。

教員活動報告書に加え、授業改善報告書を作成した 5 名に対しては、規定に基づき顕彰を行なった。 <学長奨励賞> 赤坂澄香、石井友行、池口洋一郎、新庄恵子、山本剛

(ロ) 研究活動について

① 有明教育芸術短期大学紀要 第 16 巻

研究論文 3 編、研究ノート 4 編にて構成された。

< 研究論文 >

- ・言語活動の充実を図る小学校国語科指導の在り方（教授 長田信彦）
- ・保育者養成校におけるソルフェージュを基礎とした音楽づくりと表現活動について（助教 伊藤菜々子）

- ・教員及び保育指導者養成校におけるアニメーション教育(非常勤講師 井垣京子)

<研究ノート>

- ・第4期教育振興基本計画と特別活動(教授 石井友行)
- ・保育内容「表現」の授業におけるリトミック実践の試みについて
(教授 山田麻美子)
- ・小学校算数科の指導に関する意識調査-算数科の理解と「楽しさ」-
(客員教授 若林研司)
- ・在日朝鮮学校の美術教育「学美展」についての一考察-千葉ウリハッキョの美術教育を通して-
(非常勤講師 山寄早苗)

② 子ども教育実践総合センター 子ども教育実践研究 第8巻

<研究論文>

- ・保育実習指導の充実に向けて-「事前事後指導(保育所)Ⅰ・Ⅱ」における学生の学びと評価に関する-考察-
(教授 角杉美恵子、教授 新庄恵子)
- ・保育者養成校で求められるピアノ演奏力の考察-2歳児を対象としたリトミック指導-
(非常勤講師 福田久美)

<その他>

- ・地域貢献とeスポーツ
(客員教授 伊庭崇)

<実践報告>

- ・2024年度実践教育研究会実施報告書
(教授 山田麻美子)
- ・2024年度「子どもたちとともに」活動報告
(助教 伊藤菜々子)